第 85 期会長退任のご挨拶

齋 藤 忍
Shinobu SAITO

企業の若手会員に対する対策

今年最大の課題は就任の挨拶で申し上げましたように、企業の 30 歳過ぎの会員の顕著な減少に対してどんな対策をとるかということでした。この問題に対する検討委員会を横浜国立大学の森下教授の下に組織していただき、昨年うちに答申いただきました。この答申案を理事会で審議し、今年になって実施に向けた委員会を立ち上げていただいています。

何をするのが正解か確たる自信があるわけではありませんが、日本機械学会の英語名は日本機械技術者協会なので、これからの技術者が当然取得すべき技術士資格の取得支援を行うことにしました。現在防衛大学校の松下教授の下で 86 期のうちに技術士の 1 次試験と 2 次試験の模擬体験会を行うべく大車輪で準備していただいています。86 期は試行という位置づけですが、多くの人に体験していただき機械分野の技術士の総数が増え、あわせて機械学会の企業会員も増加するよう、皆様の身の回りの若手に技術士を受験するようにぜひお勧めいただきたいと思います。私と白鳥次期会長の連名でメールをお持ちの方全員にこの問題に関するお知らせを送らせていただきました。また学会のホームページにも掲載していただきました。今後具体的な知らせが決まり次第広報に勤めることにしています。

若手会員に対するアンケート調査も行い興味ある結果を得ています。残念ながら時間切れでこの結果を次の手に反映することは出来ませんでしたが、86 期の理事会でぜひ検討していただきたいと思います。

2007 年問題に対する対策

退職した会員シニアに再就職のための企業と会員の出会いの場をつくることを埼玉県と共同で試行すべく、84 期から準備し今期初めて実施することが出来ました。なにぶん初めてのことでかなり上手に出来たとは思えず反省材料がたくさんありますが、とにかく何人かの人が成果を得ました。会員シニアの方々は日本機械学会が、退職後も会員資格を継続している人のことを気にかけられていることが分かっただけでも喜ばしいと好評でした。やり方をより改良し、試行の範囲を徐々に広げてもうすこし実のあるものに育てていただきたいと思います。今年試行した埼玉県の方々もこのマッチングの会で実際の成果が出たことに驚き、かつ喜んでくれました。実績が出れば県と学会の共同作業もよりスムーズに働くようになると思います。この事業は中小企業の情報を持つ地域団体と会員情報を持つ学会の共同作業で始めてスムーズに実施できるオープンアライアンスの事例であると考えています。

* (株) IHI 主席技監

理工系離れ対策

日本の抱える大きな悩みの一つに理工系離れ問題があります。理科離れとも言われますが、実態は工学系離れです。日本機械学会では各支部、部門でこの問題を意識した各種の行事を実施しています。しかしながら各々が独自に行事を企画し実施しているため、相互の情報が十分に共有されていないような印象を持っています。日本機械学会全体がどのような取り組みをしているか分かりやすい形にする必要があると考えました。そこで理事会をお願いして86期に関東、東海、関西、および九州支部で子供たちに工学の面白さを体験してもらう行事を行ってもらうことにしました。この種の行事はただのお遊びだけではいけないと思います。工学に対する興味を持ってもらえるよう工夫して実施して下さるよう期待しています。この問題は日本全体で取り組むべきことです。特に小・中・高等学校にその責任があります。機会のあるごとに日本全体でアライアンスを組み努力する必要のあることだと主張していただきたいと思います。PISAで指摘されている学力の低下が現実の脅威になりつつあることは事実なのであります。

社会におけるプレゼンス

本年の特記事項について何点か述べたいと思います。まず田口前会長が実施してくださっている中核人材育成事業ですが、日本機械学会という硬いイメージのある組織が中小企業を意識した事業を行っていることに対して、関係各位から驚きと高い評価の声が出ています。これからも日本のものづくりに重要な役割を担っている中小企業を意識した事業を継続的に実施していただきたいと思います。

また本年は昨年笠木会長のもとで記念式典を行いました機械の日・機械週間の実施初年度でした。110周年記念の企画の一環で準備していただいた機械遺産の表彰を、機械の日の式典の中で行いました。この企画がメディアの多大な関心を引き多くのテレビが集まりました。私の知る限り、日本機械学会の行事がかくもメディアの関心を引いたのは前例の無いことであったと思います。

110周年記念式典におきましても朝から記念事業の一環で作成していただいたロードマップの発表があり、これもメディアの注目を集めました。これはひとえに110周年記念行事を入念な計画の下にご準備していただいた長島前会長、および機械の日記念式典を準備していただいた白鳥次期会長をはじめとする関係者一同の御尽力の賜物です。知恵を出せば社会におけるプレゼンスを高めることができるという良い事例だと思います。

終わりに日本機械学会の理事会、支部、部門、機構、各センター、各種委員会、および事務局は本来の仕事をつつがなく実施してくれました。おかげで私は大過なく職務を終えることができることになりました。関係者一同に心から御礼申し上げます。

(2008年4月8日 通常総会あいさつより)